

令和3年度 学校評価結果

千葉県立松戸六実高等学校

領域	自己評価の結果(達成状況、結果の分析)	改善方策(自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
<p>学校経営</p>	<p>1 グランドデザイン(学校教育全体構想図)を作成 ①学校教育全体構想図(スクール・ミッション/ポリシー)を作成 生徒、保護者、開かれた学校づくり委員会からの意見を参考にし、学校教育全体構想図(スクール・ミッション/ポリシー)を作成した。 2 保護者や地域と連携した学校づくりを推進 ①ホームページ更新を適宜行い、最新の情報を提供 令和2年度は、年間80回更新していた。年度初めは、学校からの連絡事項が主であり、学校の様子を伝えるものではなかった。令和3年度は、12月末までに200回を超え、昨年度から倍増した。各部活動のページにおいて、活動状況を伝える更新の増加が、主な要因である。保護者対象のアンケートでは、肯定的な回答が69.8%から71.4%に微増した。 ②開かれた学校づくり委員会主催のミニ集会で本校の課題について改善策を協議 ミニ集会では、本校の課題として、学校教育全体構想図(スクール・ミッション/ポリシー)について意見をいただき協議した。参加者が限定された中での開催となったが、有意義な協議を行うことができた。 3 学校における働き方改革推進のために、業務改善に取り組む。 ①部活動の実施計画・実績の報告を月毎に提出することにより、部活動ガイドラインに沿った運営を促した。また、出退勤時間を記録し、確認することにより勤務時間に対する意識を向上させた。意識改革が進められていると回答した職員が昨年度の37.7%より41.5%と上昇した。</p>	<p>1 ①学校教育全体構想図(スクール・ミッション/ポリシー)を作成については、今年度中に素案をまとめ、来年7月に公表する。 2 ①引き続き、最新の情報提供を推進する。部活動については、更新回数が多い部活動が特定化されている。より多くの部活動で、更新がされるよう促していく。 2 ②ミニ集会において、本校の課題について改善策が協議できるよう、課題の整理等行っていく。 3 ①勤務時間に関する意識改革は、進められてきているが、十分ではない。仕事の効率化を図るなど、仕事の内容に関する改革を進め、働き方改革を推進していく。</p>	<p>1 ①左記自己評価・改善方策に異議なし。 2 ①今年度は、よく更新されて新しい情報が掲載されている。非常変災による日課の変更などの情報を掲載してもらいたい。 2 ②左記自己評価・改善方策に異議なし。 3 ①新型コロナウイルス感染症で先生方のやるべきことが増えている。士気が下がっていないか心配である。</p>	<p>1 7月の公表に向け、準備を進める。 2 ホームページの更新内容をさらに充実する。また、多くの部活動でも更新されるよう促す。 3 ノー残業デーの設置などの対策を検討する。効率化や業務の精選を図る。</p>
<p>学習指導</p>	<p>1 生徒の学びに向かう姿勢を改善し、学力の向上を図る。 ①スタディサプリの活用法を研究 リクルート社の学習支援アプリ「スタディサプリ」を今年度から導入した。学力向上委員会、若手研修チームを中心として活用方法を検討し、長期休業中、分散登校時等の課題として活用した。「家庭学習の確立」に対しての肯定的な意見が、46.2%から56.4%に向上したが、さらに高めるよう引き続き取り組む。 2 職員の授業力向上を目指した取組を通じ生徒の基礎学力及びの学びに向かう姿勢の改善 ①全職員による相互授業参観 悉皆職員による研究授業(9回)のほかに、11月に相互授業参観期間を設け計画的に行った。管理職による授業観察も適宜行い、指導・助言はその都度、もしくは、校長面談の際に行った。 ②生徒による授業アンケート 生徒の授業に対する満足度は、昨年度の80.0%を上回り、86.9%となり高い水準を維持している。保護者の満足度は、70.5%から73.4%に上昇したが80%には到達していない。 ③学びの基礎診断テストによる客観的な学力の把握と共有。 学びの基礎診断テストを国語、数学、英語で実施し、客観的な学力を把握した。生徒に還元するとともに、職員間で共有し学力向上を図った。</p>	<p>1 ①来年度より生徒のスマートフォンで教室のWi-Fiに接続できるようになる。授業内での「スタディサプリ」の更なる活用について検討する。家庭学習については、定期的なレポートや課題などを行うよう積極的に働きかける。 2 ①若手研修チームの研修会や他校の授業参観をより一層推進する。次年度もより実践的な研修の機会として相互参観期間を設け、相授業力の向上を図る。 2 ②この2年間で、生徒については、満足度が向上し80%に達している。保護者についても向上も80%の到達を目指して、情報提供を工夫し、改善に取り組んでいく。 2 ③引き続き客観的な資料で生徒の学力を把握し、基礎学力の定着を図る方策を全校体制で改善を図る。</p>	<p>1 ①中学校までで、一人一台端末を使用してきた生徒が入学してくる。その対応も検討する必要がある。「スタディサプリ」の活用を積極的に行ってほしい。 2 ①左記自己評価・改善方策に異議なし。 2 ②左記自己評価・改善方策に異議なし。 2 ③左記自己評価・改善方策に異議なし。</p>	<p>1 Wi-Fi環境の整備によりスマートフォンなどを活用した授業展開を進める。更に家庭学習の習慣化を促す働きかけを行う。 2 相互参観期間については、参観回数を記録する等、状況の把握を行い、授業力の向上を図る。また、保護者等に対して、授業に関する情報を提供していく。</p>

生徒指導 (教育相談)	<p>1 組織的な生徒指導体制、教育相談体制、特別支援教育推進体制を構築</p> <p>①学年所属の教育相談・特別支援コーディネーターを中心に生徒の情報を共有 学期ごとに教育相談情報交換会を実施し、生徒の情報の共有を図った。各学年に配置した特別支援コーディネーターを中心に、支援が必要な生徒の情報を整理、共有し、支援に全職員であたった。「先生方は生徒一人一人をよく理解するよう努めている。」の肯定的な回答が昨年度74.9%より83.6%に向上している。「安全で安心できる学校である。」の肯定的な回答も昨年度78.6%より87.9%に向上している。</p> <p>②学期ごとのいじめアンケートを実施し、いじめ防止対策委員会にてアンケート結果を確認し、全校体制でいじめの早期発見、早期対応を行った。今年度は特に組織的な早期対応を整備資した。</p> <p>2 遅刻指導、交通安全指導を重視し、自律性の育成を目指す。</p> <p>①通年で遅刻指導、交通安全指導を実施 通年で、遅刻指導を行った。月1回警察と協力しマナーアップキャンペーンを行い、交通安全指導を実施した。また、2学期末には、交通安全指導で、警察の方より講話をしていただき指導した。自損事故は3件から1件に減少している。登下校時の自転車乗車マナーについて、課題が残っている。</p> <p>3 全校体制で感染症対策に取り組む。</p> <p>①保健厚生部中心に感染症対策年間指導計画 年間を通して、計画的に感染症対策を行い、12月までで、休校、学級閉鎖等は行わなかった。昼食指導等は、状況に応じて、対応を変えながら実施した。</p> <p>②健康観察の徹底 健康観察アプリ「リーバー」を導入し、健康観察の効率化を図った。授業日では、90%以上、長期休業、週休日では、70%程度の生徒が体温等を入力し、健康観察できている。</p>	<p>1 ①学年会において、情報提供、共有の時間を必ず取って現在の状況、問題点、改善点などをその都度確認する。早期発見、早期対応につなげるため、引き続き実施する。特別な教育的支援が必要な生徒に対しては、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関との連携や特別支援学校のセンター的機能を活用する等、「チーム学校」を推進していく。</p> <p>1 ②引き続き実施し、早期発見、早期対応に努める。</p> <p>2 ①引き続き、遅刻指導、交通安全指導を続ける。</p> <p>3 ①感染症対策は、引き続き通年で実施する。ニューノーマルとして、生徒の自立的な感染予防対策を実施する。</p> <p>②「リーバー」による健康観察の実施率を100%に近づける。入力強化週間を設け、朝のHR時点での出席者は全員実施するよう指導する。</p>	<p>1 ①問題が生じた場合の対応のみならず、生徒の自身の自己教育力を高め予防的な生徒指導にも力を入れてほしい。</p> <p>1 ②左記自己評価・改善方策に異議なし。</p> <p>2 ①警察と協力して月に1回厳しく指導している。継続してもらいたい。その一方で事故になりかねない事案も見られる。十分に指導してもらいたい。</p> <p>3 ①感染症対策は継続して実施し、対策に漏れがないようにする必要がある。</p> <p>3 ②左記自己評価・改善方策に異議なし。</p>	<p>1 組織的な生徒指導体制、教育相談体制、特別支援教育推進体制を維持し、情報の共有と連携した対応を実践していく。また、予防的開発的教育相談も組織的に取り組む。</p> <p>2 遅刻指導、交通安全指導は継続して実施する。生徒の自律性を高める生徒指導を目指す。特に交通安全指導は、警察と連携しさらに改善に取り組む。</p> <p>3 感染症対策に漏れがないよう指導計画を適宜見直す。また、生徒の自立性を高めて健康観察の徹底を継続する。</p>
キャリア教育	<p>1 生徒一人一人の自己実現のため進路指導の充実</p> <p>①進路説明会、②進路ガイダンス 進路ガイダンスを、学年ごとに実施し、全校では、年間6回を実施した。また、公務員志望の生徒対象の公務員ガイダンスを、年間を通じて実施した。一部、コロナウイルス感染症の拡大により、当初予定していた方式とは異なる形での実施となったが、当初の予定通りの回数を実施することができた。生徒の進路指導、進路関係の情報提供に関する肯定的回答は、昨年76.8%から83.6%に上昇している。</p> <p>③インターンシップ コロナウイルス感染症の拡大のため昨年度は、実施できなかったが、規模を縮小し実施した。保育分野では、1日ずつではあるが13名の生徒が参加した。介護分野では、1名の生徒が2日間参加した。小学校に関しては、2月に受け入れ施設を1校増やし、4校での実施を予定していたが、感染拡大で実施できなかった。</p> <p>④ボランティア活動 ボランティア体験講座に参加する生徒が多数いる。継続的にボランティア活動をしている生徒もいる。コロナウイルス感染症拡大により、松戸特別支援学校へのボランティアは中止となった。</p>	<p>1 ①②説明会、ガイダンスを実施することにより、生徒への情報発信が行われ、一人ひとりに適した進路指導を実現できることから、実施方法をその時々状況に合わせ、実施していく。また、1・2年生の段階から、自らキャリア形成への意識を高める指導をより充実させる。</p> <p>1 ③体験的な学びは本校のキャリア教育の特徴である。コロナ禍でも、実施可能な方策を追求していく。</p> <p>1 ④ボランティア活動への参加は、生徒の視野を広げ、キャリア教育としての意義も高い。次年度もJRC部、その他の部活動での取組を継続するとともに、広く生徒への啓発活動を行なう。松戸特別支援学校でのボランティア活動は、次年度形を変更しても実践したい。</p>	<p>1 ①説明会、ガイダンスの実施は継続して行ってほしい。進学だけでなく、就職に関するガイダンス等も継続して行ってほしい。</p> <p>1 ③左記自己評価・改善方策に異議なし。</p> <p>1 ④ボランティア活動では、普段の学校生活では学べない経験ができるので継続してもらいたい。地域の方にも認識してもらっているので、活動を継続してもらいたい。</p>	<p>ガイダンスの実施形態、回数等検討し、生徒の実情に合ったより効果的な方法を検討する。保護者に対する進路関係の情報提供をより積極的に行う。自己理解を促し、生徒の進路に対する意識を高め、模擬試験や資格試験の効果的活用について改善を進める。</p> <p>インターンシップ、ボランティア活動は、生徒にとって貴重な学びの場となるので、コロナ禍に対応した実施方法等を検討して継続する。</p>
特色ある教育活動	<p>1 部活動等において、他者を認め、人権を尊重する人材を育成する。</p> <p>①あいさつや清掃活動 生徒会、各部活動において、挨拶の励行を実施している。校内の清掃については、生徒の意識の向上がみられる。「校内清掃が行き届き整理整頓されている。」の肯定的回答が57.7%から67.3%に向上している。引き続き清掃活動を含めた環境整備について、指導していく必要がある。近隣の清掃活動については、コロナウイルス感染症拡大により各部活動において、年間で数回実施した。</p> <p>2 総合的な探究の時間を充実させ、生徒に自ら探究する力を身に付けさせる</p> <p>①総合的な探求の時間について実践及び検討 1学年において、総合的な探究の時間を6時間使い、探究的な学習の方法論について、学ぶ機会とした。「SDGs」を題材として、各クラスにおいて、グループ単位の「課題研究」に取り組み、発表を行った。生徒は、興味を示し、探究学習について積極的に取り組むことができた。</p>	<p>1 ①挨拶や清掃活動を継続する。部活動のみならず、全校生徒が、日常としてあいさつやマナー、政党が行えるよう取り組んでいく。校舎全面改修が控えているが、引き続き環境整備についての意識を向上させ、生徒の指導を行っていく。</p> <p>2 ①今年度の1学年より系統立てた探究的な学習「課題研究」を総合的な探究の時間を活用し進めている。次年度から年次進行で進んでいく新たな学習指導要領の目標に沿って、今年度の反省を踏まえ、系統的な取り組みを本格実施する。</p>	<p>1 ①六実生が登校時に、自発的に挨拶してくれる。素晴らしい校風を続けてほしい。</p> <p>2 ①左記自己評価・改善方策に異議なし。広く校外に取組をアピールするといい。</p>	<p>1 老朽化による校舎の全面改修を控えているが、生徒の環境整備についての意識を高め、環境を整える。</p> <p>2 3か年を見通して探究学習の全体計画を作成した。次年度以降、本格実践の中で改善・充実させていく。また、広報にも努めていく。</p>

